

平成28年度 学力向上アクションプラン

A票

南武庫之荘中 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
○全国調査の結果からみられる課題 (1) 学力調査 H27の結果では、ほぼ全国と同じ傾向の結果であったが、国語A・Bにおいて上位層がやや少なくなっていた。また、数学Bにおいては、下位層がやや多くなっていた (2) 質問紙調査 H27の結果では、全体的良好であったため、生活習慣・規範意識・学習習慣とも、より高みを目指す必要がある ○学校評価アンケートからみられる課題 国語の内容がよくわかると回答した割合(76%)、どの教科にも集中して取り組んでいると回答した割合(77%)、宿題を必ずしていると回答した割合(78%)と全体的に良好であるものの、80%を割っている	○学識経験者を招聘して、コミュニケーショントレーニングについての研鑽を深める【(1)アクティブ・ラーニング報償費を活用】 ○大学から指導助言者を招聘して、主体的・協働的な学習に推進を図る。【(1)アクティブ・ラーニング報償費を活用】 ○先進校における取組内容の検証による授業力向上(活動的で協同的で表現的な学び)【(1)アクティブ・ラーニング旅費を活用】 ○NIEを中心とした言語活動の充実と学びあいの場の構築【(5)学力定着支援を活用】	○放課後学習支援・夏季休業中の学習支援を開催し、個々の能力に応じた課題学習への支援を行い家庭学習の定着に繋げる。 【(4)放課後等学習支援を活用】 ○グループ学習を効果的に行うためのホワイトボード活用【(1)アクティブ・ラーニング需用費を活用】 ○国語の授業における同室複数指導による、主体的・協働的な学習の支援【(1)アクティブ・ラーニング指導補助嘱託員を活用】 ○各教科における課題作成と学習指導 【(5)学力定着支援を活用】 ○家庭学習の重要性を啓発する教育相談の実施	○ICTを活用した分かりやすい授業づくり ○言語活動・言語能力の向上を重視した各教科の横断的な学習活動 【(5)学力定着支援を活用】 ○活用力を伸ばす参加型体験学習の実施	○ 全国学力・学習状況調査 (1) 学力調査 全教科において、平均正答率の全国平均+0.5ポイント以上をめざす (2) 質問紙調査 規範意識、生活習慣、学習習慣に関する項目において、全国平均を上回る(逆転項目においては、全国平均を下回る) ○学校評価アンケート 質問項目「国語の内容がよくわかる」、「どの教科にも集中して取り組んでいる」、「宿題を必ずしている」において、いずれも肯定的な回答が80%を越える

校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
○小から中への円滑な接続を図るための連携の推進 ○夏季合同研修会の実施(小中共同の学力向上への取り組みの検討) ○入学前テストの検証を踏まえた小中の学習状況についての情報交換 ○小学校の学力向上に対する取組実践の応用と展開 ○支援が必要な生徒に対する情報交換 ○異校種交流研修における小学校での授業参観とゲストティーチャーの実施	支援内容	具体的内容	○学力向上アクションプランの明示 ○学力調査結果の公表 ○地域人材の図書ボランティア及び放課後学習等への活用 ○保護者懇談会の充実 ○オープンスクールでの保護者・地域の方々に対する授業公開 ○地域と連携した参加型体験学習
	(1)アクティブ・ラーニング推進支援	コミュニケーショントレーニングについての研修(学識経験者3回) 主体的・協働的な学習の推進(大学からの指導助言者招聘3回) グループ学習を効果的に行うためにホワイトボードを活用	
	(2)先進校視察支援	福井市内の中学校を視察(活動的で協同的で表現的な学び)	
	(4)放課後等学習支援	月曜サテライト(全学年対象、年間25回の予定) 水・金放課後学習(3年対象、2学期後半から実施、25回の予定) 夏季休業中の学習支援(10回の予定)	
	(5)学力定着支援	NIE学習を活用した、基礎的な学力と言語活動技能の習得 また、これらを活用して課題解決のための思考力と判断能力の養成 学習習慣定着のための教材及び資料作成 授業研究に役立つ文献の活用	